［認知症対応型共同生活介護用］

1．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成 21年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902140		
法人名	有限会社　本間サービス		
事業所名	グループホーム　こもれ陽		
所在地	〒070-8143　旭川市春光台３条９丁目２－１８ （電　話）0166-51-4774		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北２条西７丁目１番地		
訪問調査日	平成21年11月17日	評価確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】（平成２１年１１月２日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和 (平成) １７年３月３１日		
ユニット数	１ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	11 人	常勤　2人，　非常勤　9人，　常勤換算　8.7人	

（２）建物概要

建物構造	木 造　　造り
	2 階建ての　　1 階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	28,000　円		その他の経費(月額)	18,000～24,000 円	
敷　金	有（　　円）	(無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無	
食材料費	朝食	300　円	昼食	400　円	
	夕食	400　円	おやつ	0　円	
	または1日当たり　1,100　円				

（４）利用者の概要（11月17日現在　）

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護１	3　名	要介護２	0　名		
要介護３	3　名	要介護４	0　名		
要介護５	2　名	要支援２	0　名		
年齢	平均　83.2 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	佐野病院、杉村歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

道北の都市の郊外に位置する当事業所は、近隣に福祉施設などがあり、福祉や介護への関心の高い地域にある。法人の代表でもある施設長は長らく福祉の事業に関わった経験や知識を活かし、利用者が楽しく暮らすにはどのようなことが必要かを考え、実行するために事業所を開設した。同業者との交流においては、他の地域の事業所と宿泊形式で職員の交換研修を行い、技術や運営方法を学んでいる、また、利用希望者には通所による体験利用を行っている。また開設5年を迎え、日々の理念に基いたケアの実践に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の改善項目は、施設長と職員が早期に協議し改善に向けて取り組んでいる。今後、改善計画等を作成し、改善に向けた取り組みが計画的に行われることとしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	職員で自己評価を行い、日常の業務を振り返ることによる、サービスの質の向上に意識的に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	事業所を開設している地域では、行政職員及び地域包括支援センター職員が運営推進会議への派遣を認めていないため出席していない。利用者家族、地域住民、事業所が日常的な対話を心がけて定期的に会議を開催している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族とは家族会で定期的に意見の交換や事業方針などについての話し合いをしている。また、家族も行事へ参加するなど事業所と家族の連携が密接である。事業所は、会議以外にも面会時などにコミュニケーションを図り、利用者の様子の報告を行うなど、日常的に家族からの意見を聞くように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	事業所主催で納涼祭、収穫祭、誕生会などの行事を実施しており、地域住民が多く参加するなど、事業所は日常的に地域との交流を行っている。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 　地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と連携や交流を図り、利用者の尊厳を重んじた理念を掲げており、施設長や職員は事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 　管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、施設長は理念に基いたケアの実践を行い、職員と理念を共有し、その中から事業所独自のケア実践の方向性を示している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 　事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所職員も数人が町内会に在住していることもあり、地域とは日常的に交流している。また、例年事業所は納涼盆踊りを主催し、事業所の敷地を地域へ開放するとともに、その他の各種行事への参加も地域に呼びかけている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 　運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員全員に自己評価項目を記載した用紙を配布し、各自検討し、日常の事業の振り返りとしても活用している。施設長が中心となり前年度の課題の改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。会議では、事業所の防災訓練や災害時の緊急的応援、利用者の無断外出など事業所の運営に関わる議題を話し合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携は円滑であり、スプリンクラー設置に向けての取り組み等、具体的な内容を相談している。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に発行している「こもれ陽たより」で利用者や事業所の様子を家族等へ報告している。金銭管理については、定期的に家族の確認のサイン及び捺印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が組織されており、利用者や家族が行事や定期的な交流会、茶話会などで事業所と対話する機会を設けている。さらに、職員は、家族の面会時にコミュニケーションを図り、日常的に意見を聞くように心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単一事業所であり、職員の配置転換の事例はない。また法人として離職を防ぐ工夫をしており、職員の退職事例が少ない。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部の研修に積極的に参加し、研修で得た情報や技術を職員会議などで共有化している。内部研修については、年間計画を立てるまでには至っていない。	○	内部研修について、年度毎に研修計画を立て、実行することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市外の事業所と職員交流、交換研修を宿泊で実施している。また、ケア実践について、ケア研究会で実践報告会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の家庭訪問や、事業所の見学などを実施している。他に希望者には空室がある場合には体験利用の実施、空室が無い場合には通所による体験利用を行えるように体制を整えている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者の立場になったケアサービスを行うようにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 　一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時にアセスメント等を行い、利用者や家族の希望や意向の確認を行っている。また、日々のケアの中でも職員は利用者の希望や意向を汲み取りカンファレンスで本人本位に検討している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 　本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員と計画作成担当者は利用者に即した状態を把握するために、週２～３回カンファレンスを実施し利用者の状況を確認し、ケアサービスについて検討している。家族の意見はカンファレンスで聞いたり、遠方で来訪が困難な家族には電話等で話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 　介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヶ月、６ヶ月を目安に介護計画の見直しを行っている。しかし、介護計画の実施の状況や、評価などについて充分な記録がない。	○	３ヶ月毎に介護計画についての適正な評価を行い、記録を整備し、この評価をもとに次回介護計画の見直しを行うことを期待する。
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 　本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は単一事業所であるが、他の事業所と連携を図り、最大限多機能性を活かせるように努力している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を図った、医療支援を実施している。専門医の受診や利用開始以前のかかりつけ医への受診など、利用者の希望を聞き、対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時や利用者の状態が変化した場合、その都度家族や主治医と面談や連絡を行い、今後の方向性や考え方を協議し、意思統一している。また、終末期に向けた説明を行い、同意書として記録に残している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マナーについての講話を行うなど、利用者への接遇の質の向上に取り組んでいる。また、利用者の尊厳を尊重した対応にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や規則等の取り決めはあるが、利用者の希望を優先した生活支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 　食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を中心とした食事を提供している。また、利用者からの要望や好みに対応しながら、献立を作成している。食事の準備や後片付けは利用者の身体能力に応じてできる限り参加できるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から金曜日で週２回を目安として入浴支援を行っている。また、季節によって入浴やシャワー対応が必要な時や利用者の希望がある場合は、その都度対応を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の外出等、気分転換ができるように支援している。また、作業として毎月のカレンダー作りを利用者と職員で行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 　事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り個別の希望に対応している。また、事業所行事として季節毎に外出の機会を設けている。恒例行事として、温泉に一泊旅行を実施している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 　運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上の理由により夜間は施錠している、日中は常に開錠しており、利用者が事業所周囲の畑や花壇に自由に出入りすることが可能である。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 　火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年２回実施している。近隣住民には災害時に協力してもらえるように支援要請を行っている。また、職員は救急救命講習を受け、緊急対応ができるようにしている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量についての記録がある。刻み食やミキサー食対応ができる体制にあり、献立については栄養士に栄養相談を行い、助言を受けている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 　共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は食卓テーブルやソファが並び、居心地の良い空間となっている。天窓や事務所の大きな窓があるのでリビングは自然光が入り明るく、厨房や事務所とオープンカウンターでつながっており開放的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者や家族の希望により、使い慣れた思い出の品々を持ち込んでいる。利用開始にあたり、持ち込む品物に制限はしていない。		

※ ▨ は、重点項目。